＜プレスリリース＞

平成 24 年 12 月 26 日
一般財団法人 長野経済研究所

「中央道笹子トンネル天井板崩落事故の影響に関するアンケート調査結果」
～事故により長野県への年末年始の観光客･来訪者は減少～

12 月 2 日、中央道 笹子トンネル（上り線）で発生した天井板崩落事故により、9 名の方がお亡くなりになられました。犠牲者ならびにご遺族の方には心よりお悔やみを申し上げます。

中央道は復旧および原因究明・事故防止のため上下線とも通行止めになっており（29 日より下り線で対面通行開始予定）、地域経済・社会にも大きな影響を生じております。

一般財団法人長野経済研究所（長野県長野市）は、「中央道笹子トンネル天井板崩落事故の影響に関するアンケート調査」として、一般の道路使用者を対象にトンネル事故により心理的に、また年末年始の行動にどのような影響があるかアンケート調査を実施しました。

＜調査結果のポイント＞

◇ 年末年始に長野県へ訪問を予定・検討していた 16.5%の回答者のうち、「長野県への訪問をとりやめる」と回答したのは 16.8%。東京・神奈川・千葉の三都県在住者では 3 割（30.6%）が長野県来訪をとりやめると回答。

- 事故発生以前に年末年始に長野県を訪れることを予定・検討していた回答者（16.5%）のうち、今回の事故により「長野県への旅行・訪問をやめる」とした回答者が 16.8%、「迂回路の混雑状況などにより長野県に行くかどうか考える」とした回答者が 9.3%と、事故により長野県への来訪者減少が懸念される（ｐ4 図表 2）。

- 長野県を訪れるのに中央道を利用する東京都・神奈川県・千葉県在住者に絞って、長野県訪問の予定の変化をみると、「変化はない」は 13.9%（全国 40.2%に対して▲26.3ﾎﾟｲﾝﾄ）にとどまり、「長野県への来訪をやめる」が 30.6%に上昇（同＋13.8 ﾎﾟｲﾝﾄ）し、影響がより大きいことがうかがわれる（ｐ5 図表 3）。

照会先：一般財団法人長野経済研究所
担当：調査部 主任研究員　田中 英俊
電話：026-224-0504

＜調査結果の要旨＞

・ 中央道笹子トンネル天井板崩落事故発生以前に年末年始に長野県を訪れることを予定・検討していた回答者（全体の 16.5%）のうち、今回の事故により「長野県への旅行・訪問をやめる」とした回答者が 16.8%、「迂回路の混雑状況などにより長野県に行くかどうか考える」とした回答者が 9.3%と、事故により長野県への来訪者減少が懸念される（**ｐ4 図表 2**)。「通行ルート・交通手段を変更」して長野県に来る回答者も 25.2%いる。

・ 長野県を訪れるのに中央道を利用する東京都・神奈川県・千葉県在住者に絞って、長野県訪問の予定の変化をみると、「変化はない」は 13.9%（全国 40.2%に対して▲26.3ﾎﾟｲﾝﾄ）にとどまり、「長野県への来訪をやめる」が 30.6%に上昇（同＋13.8ﾎﾟｲﾝﾄ）し、影響がより大きいことがうかがわれる（**ｐ5 図表 3**)。「目的地は変えず、ルート・交通手段を変える」も 33.3%（同＋8.1ﾎﾟｲﾝﾄ）いる。

・ 旅行の目的別に、事故による長野訪問の予定の変化をみると、「帰省」者は「目的地は変えず、ルート・交通手段を変える」(37.0%) が他に比較して高い（**ｐ5 図表 4**)。「ウィンタースポーツ」選択者は「変化はない」(59.0%) が高く、「長野県への旅行・訪問をやめる」人はいない。「温泉」を目的にしている回答者は「長野県への旅行・訪問をやめる」が 20.0%と、他県へ目的地を変更する姿がうかがわれる。

・ 高速道路利用の意識の変化としては、今回の事故により回答者の 86.4%がトンネル通過に対して不安・心配を感じている。回答者の 35.4%は「トンネル通過が大いに不安」、47.1%が「トンネル通過が多少心配を感じる」と答え、「高速道路を通らないようにする」と答えた回答者も 3.9%みられた（**ｐ6 図表 5**)。

・ 高速道路の通過に不安感を持つ回答者の不安がなくなるには、「笹子トンネルの改修終了」が必要と答えた回答者は 3.0%にとどまり、「危険なトンネルの点検改修の完了」を必要とする回答者が 64.0%に上った（**ｐ7 図表 7**)。「点検改修があっても不安は消えない」とした回答者も 25.1%いた。

・ 長野県来訪に限らず、今回のトンネル事故により、年末年始の予定を何らかの形で変更した回答者は約 2 割 (19.2%)。「旅行・外出をやめる」は 3.5%。「目的地は変えず、通行ルートを変更する」(6.9%)、「マイカー・バスから他の交通手段に変える」(4.5%)、「目的地を変える」(4.3%) という対応がみられる（**ｐ7 図表 8**)。中央道沿線の東京都・神奈川県・山梨県・長野県・岐阜県在住者ではより大きな影響がみられる（**ｐ8 図表 9**)。

＜調査の概要＞

調査方法：インターネット調査

調査対象：Web アンケートパネル「ＮＣにっぽんドットコム」登録者

回 答 者：全国の 20 歳以上の男女　649 名

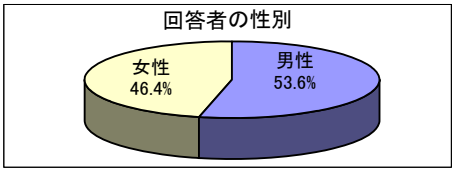
調査期間：平成 24 年 12 月 14 日（金）～12 月 20 日（木）の 7 日間

調査事項：

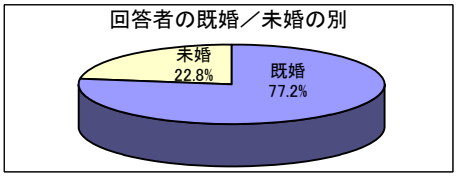
- 年末年始の予定
- 高速道路利用に対する意識
- 事故による年末年始の予定の変化
- 事故による長野県来訪意向の変化

回答者の概要：

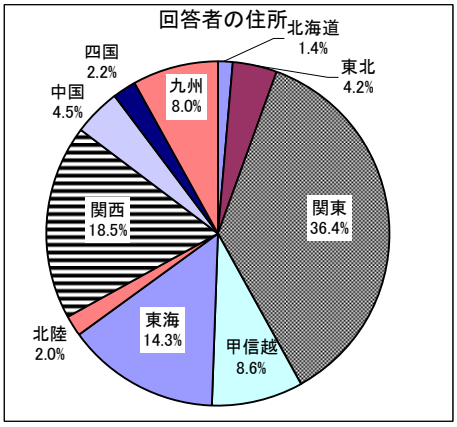
【回答者の性別】	回答数	構成比
男性	348	53.6%
女性	301	46.4%
計	649	100.0%



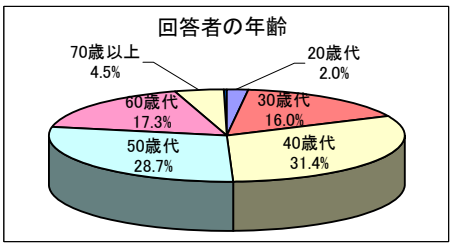
【回答者の既婚/未婚の別】	回答数	構成比
既婚	501	77.2%
未婚	148	22.8%
計	649	100.0%



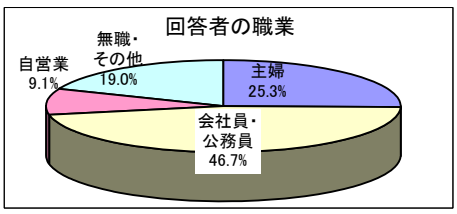
【回答者の住所】	回答数	構成比
北海道	9	1.4%
東北	27	4.2%
関東	236	36.4%
甲信越	56	8.6%
東海	93	14.3%
北陸	13	2.0%
関西	120	18.5%
中国	29	4.5%
四国	14	2.2%
九州	52	8.0%
計	649	100.0%



【回答者の年齢】	回答数	構成比
20歳代	13	2.0%
30歳代	104	16.0%
40歳代	204	31.4%
50歳代	186	28.7%
60歳代	112	17.3%
70歳以上	29	4.5%
不明	1	0.2%
計	649	100.0%



【回答者の職業】	回答数	構成比
主婦	164	25.3%
会社員･公務員	303	46.7%
自営業	59	9.1%
無職･その他	123	19.0%
計	649	100.0%

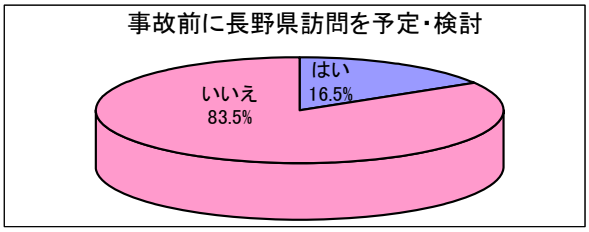


＜調査結果＞

Ⅰ．年末年始の長野県来訪に対する影響

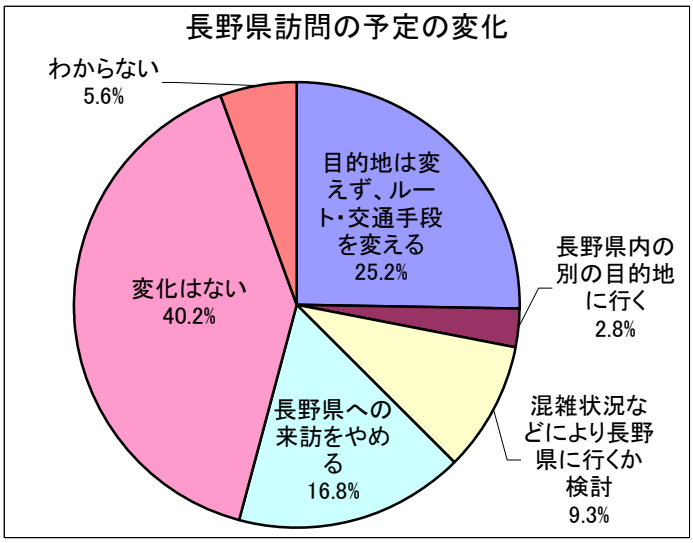
◆トンネル天井板崩落事故発生以前に、年末年始に長野県を訪れることを予定・検討していた回答者は 16.5%。

図表 1. トンネル天井板崩落事故発生以前に、年末年始に長野県を訪れることを予定・検討していたか（n=649）



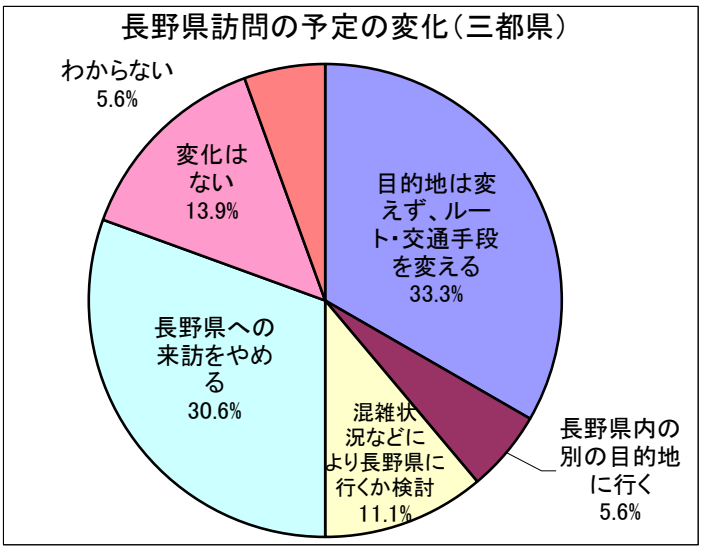
◆事故発生以前に年末年始に長野県を訪れることを予定・検討していた回答者（全体の 16.5%）のうち、事故により「長野県への旅行・訪問をやめる」とした回答者が 16.8%、「迂回路の混雑状況などにより長野県に行くかどうか考える」とした回答者が 9.3%と、事故により長野県への来訪者減少が懸念される。

図表 2.（長野県への訪問を予定・検討していた方に）事故による年末年始の長野県訪問の予定の変化（n=107）



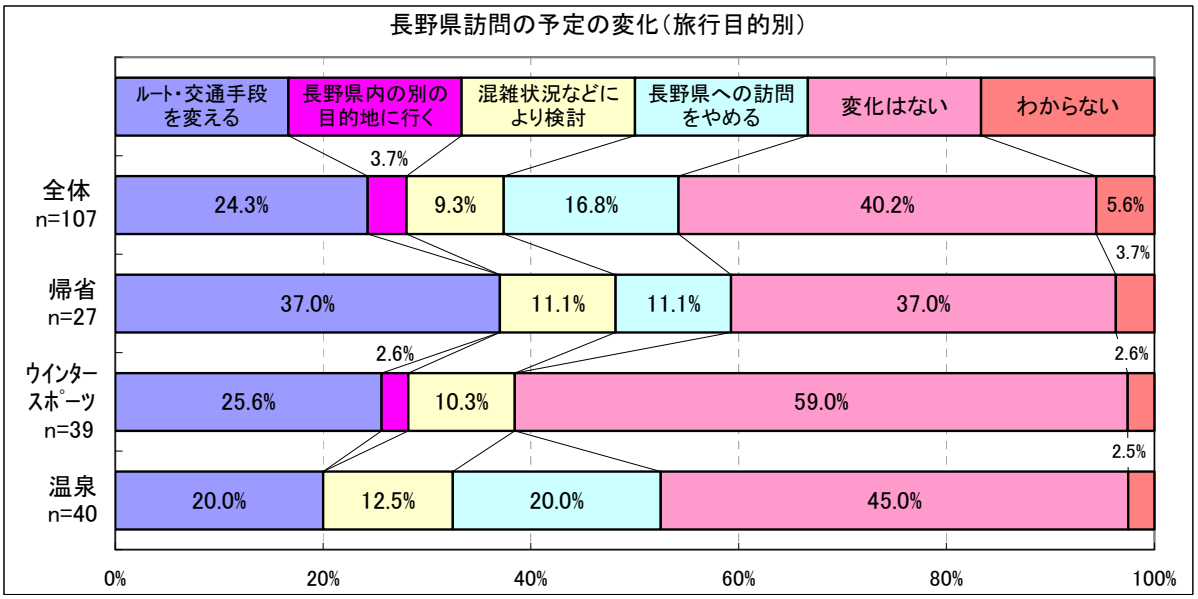
◆中央道を利用して長野県を訪れる東京都・神奈川県・千葉県在住者に絞って、長野県訪問の予定の変化をみると、「変化はない」（13.9%）は減少（全国 40.2%(図表 2)に対して▲26.3ﾎﾟｲﾝﾄ）する一方、「長野県への旅行・訪問をやめる」とした回答者が 30.6%に上昇（同＋13.8ﾎﾟｲﾝﾄ）し、影響がより大きいことがうかがわれる。「目的地は変えず、ルート・交通手段を変える」も 33.3%と回答者全体より＋8.1ﾎﾟｲﾝﾄ増加する。

図表 3. 事故による年末年始の長野県訪問の予定の変化（東京・神奈川・千葉在住者）（n=36）



◆旅行の目的別に、長野訪問の予定の変化をみると、「帰省」者は「目的地は変えず、ルート・交通手段を変える」（37.0%）が他に比較して高い。「ウィンタースポーツ」選択者は「変化はない」（59.0%）が高く、「長野県への旅行・訪問をやめる」人はいない。「温泉」を目的にしている回答者は「長野県への旅行・訪問をやめる」が 20.0%と、他県へ目的地を変更する姿がうかがわれる。

図表 4. 事故による年末年始の長野県訪問の予定の変化（旅行目的別）（n=649）

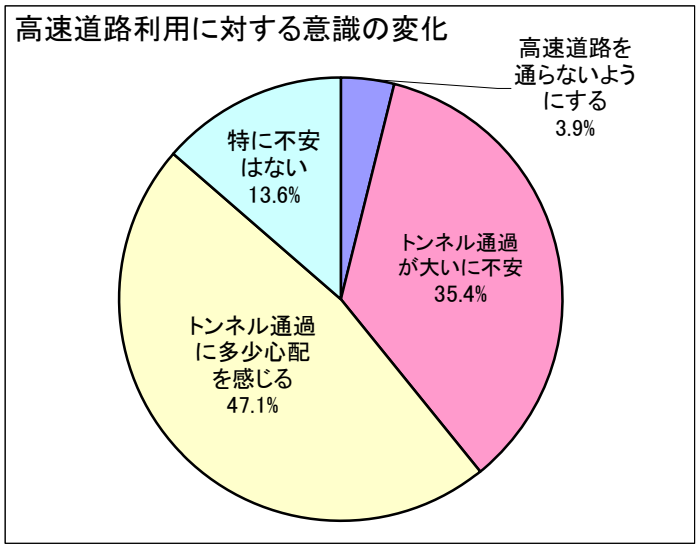


Ⅱ．中央道笹子トンネル天井板崩落事故に対する意識、行動の変化

（１）高速道路利用についての意識の変化について

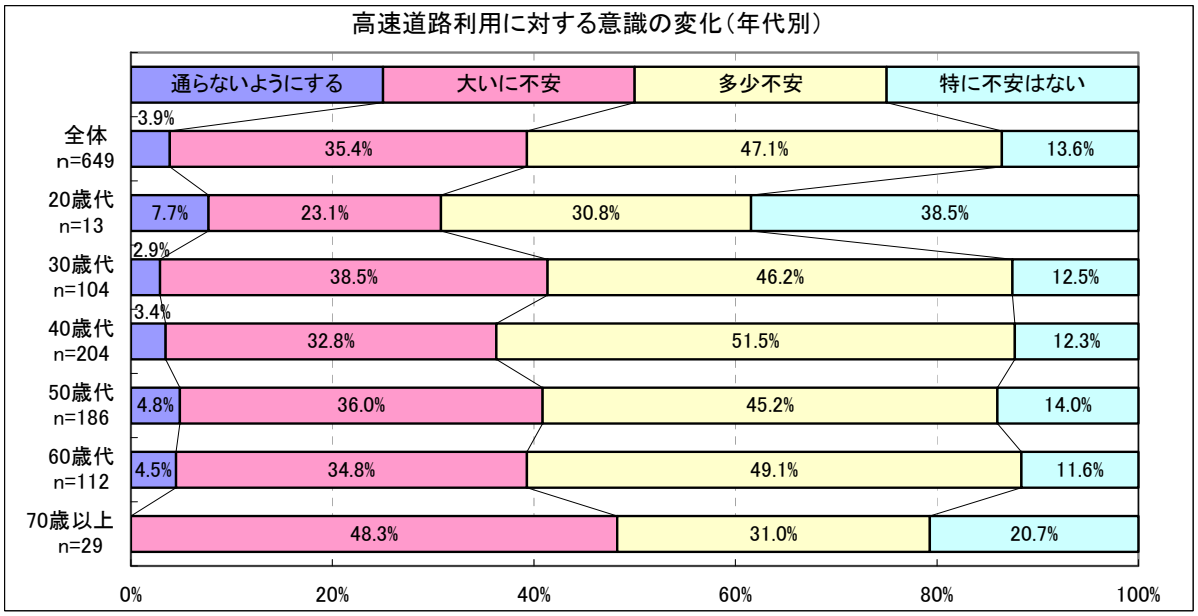
◆回答者の 86.4%が高速道路の利用について不安を感じている。35.4%の回答者は「トンネル通過が大いに不安」であるとし、「高速道路を通らないようにする」と答えた回答者も 3.9%みられた。

図表 5. 中央道笹子トンネル天井板崩落事故による高速道路利用についての意識の変化（n=649）



◆年代別にみると、20 歳代で「特に不安がない」が 38.5%で高水準、70 歳以上で「大いに不安」が 48.3%である一方、「特に不安がない」が 20.7%で、他の世代と異なる傾向を示した。

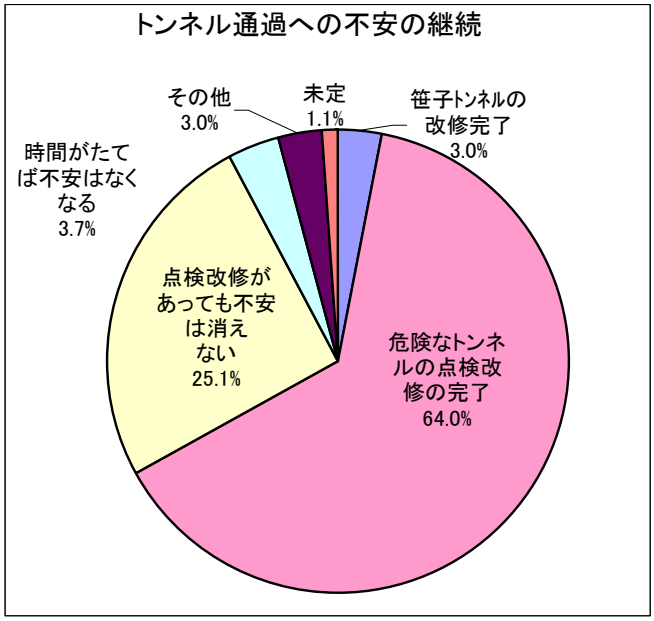
図表 6. 中央道笹子トンネル天井板崩落事故による高速道路利用についての意識の変化（年代別）



（２）トンネル通過に対する不安がなくなるのに必要な対応・状況

◆高速道路の通過に不安感を持つ回答者（全体の 86.4%）に、トンネル通過に不安がなくなるにはどのような対応・状況が必要であるかたずねると、「笹子トンネルの改修終了」と答えた回答者は 3.0%にとどまり、「危険なトンネルの点検改修の完了」を必要とする回答者が 64.0%に上った。「点検改修があっても不安は消えない」とする回答者も 25.1%いた。「その他」の回答で、「トンネルの構造強化」、「抜本的な道路行政の改革」、「管理体制の見直し」など求める声もみられた。

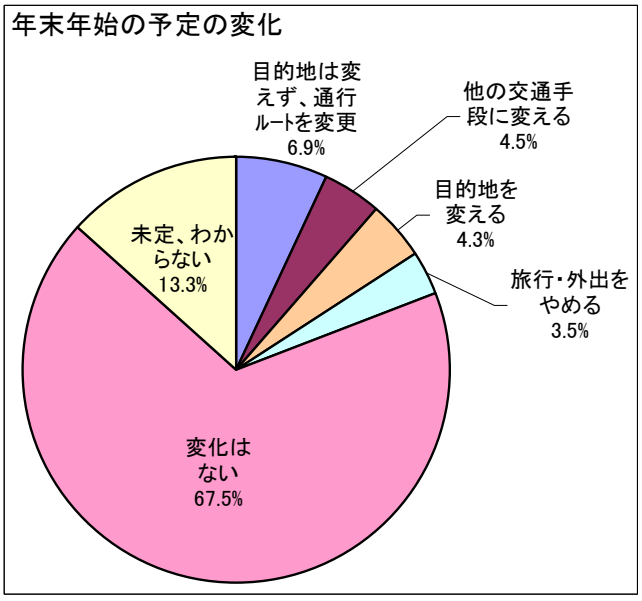
図表 7. トンネル通過に対する不安がなくなるのに必要な対応・状況（n=561）



（３）トンネル天井板崩落事故による年末年始の予定に生じた変化

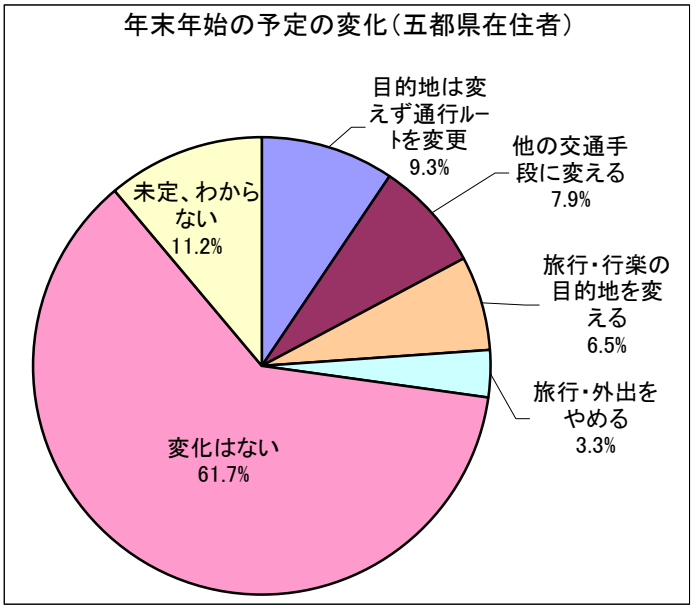
◆今回のトンネル天井板崩落事故を受けて年末年始の予定に変化が生じたかたずねた。「旅行・外出をやめる」と答えた回答者は 3.5%であったが、「旅行・外出の目的地は変えず、通行ルートを変更する」(6.9%)、「マイカー・バスから他の交通手段に変える」(4.5%)、「旅行・行楽の目的地を変える」(4.3%)と、何らかの形で予定を変更した回答者は約 2 割（19.2%）に上った。

図表 8. トンネル天井板崩落事故による年末年始の予定に生じた変化（n=649）



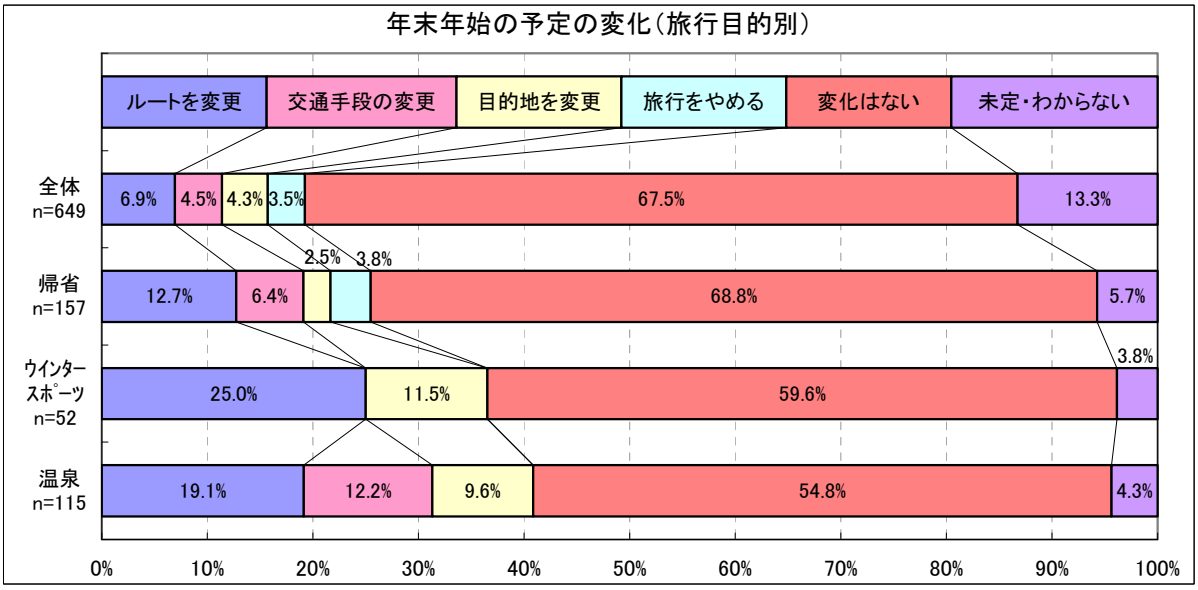
◆中央道沿線の５都県（東京都・神奈川県・山梨県・長野県・岐阜県）在住の回答者（214 名）に絞って、年末年始の予定の変化をみると、「変化はない」（61.7%）が低下（全国 67.5%（**図表 8**）に対して▲5.8ﾎﾟｲﾝﾄ）、「目的地は変えず、通行ルートを変更」（9.3%）（同＋2.4ﾎﾟｲﾝﾄ）、「マイカー・バスから他の交手段に変える」（7.9%）（同＋3.4ﾎﾟｲﾝﾄ）、「旅行・行楽の目的地を変える」（6.5%）（同＋2.2ﾎﾟｲﾝﾄ）が相対的に高くなっており、より影響が大きいことがうかがえる。

図表 9. 事故による年末年始の予定に生じた変化（東京・神奈川・山梨・長野・岐阜在住の回答者）（n=214）



◆国内旅行（日帰り旅行・帰省を含む）の予定のある回答者の旅行の目的別に、予定の変化をたずねた。「ウィンタースポーツ」を目的にする回答者は、「交通手段の変更」をする回答者はいなかった一方で、「旅行・外出の目的地は変えず、通行ルートを変更する」が 25.0%、「目的地の変更」が 11.5%いた。「温泉」を目的にする回答者は、「交通手段の変更」をする回答者が 12.2%、「旅行・外出の目的地は変えず、通行ルートを変更する」が 19.1%、「目的地の変更」が 9.6%いた。

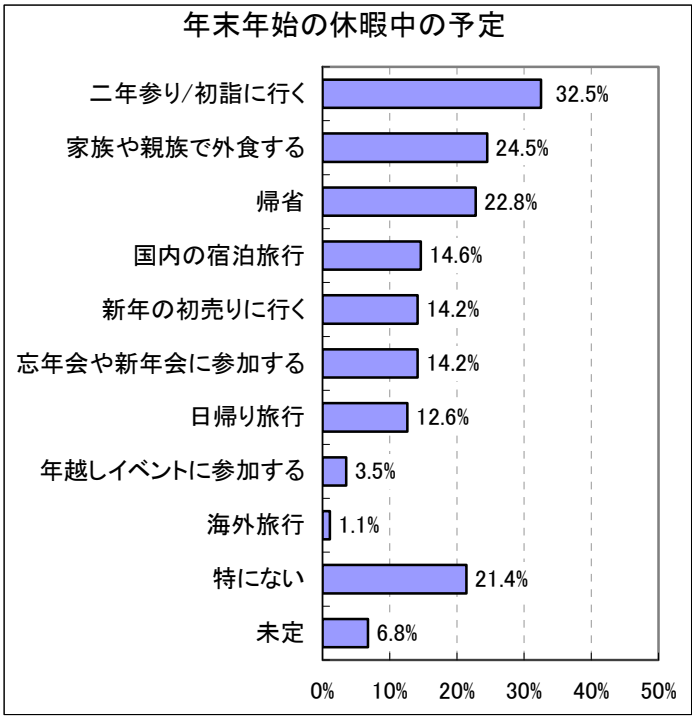
図表 10. トンネル天井板崩落事故による年末年始の予定に生じた変化（旅行の目的別）



Ⅲ. 回答者の年末年始の予定

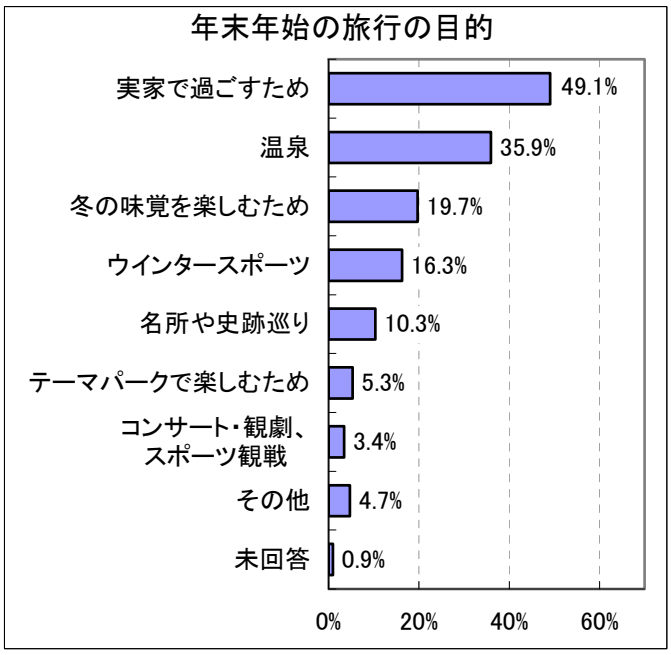
◆回答者の年末年始の休暇中の予定は、「二年参り/初詣に行く」(32.5%)がもっとも多い。「家族や親族で外食する」(24.5%)、「帰省」(22.8%) と、家族・親族で時間を過ごす人の割合も高い。

図表 11. 年末年始の休暇中の予定（複数回答　最高 3 つまで、n=649）



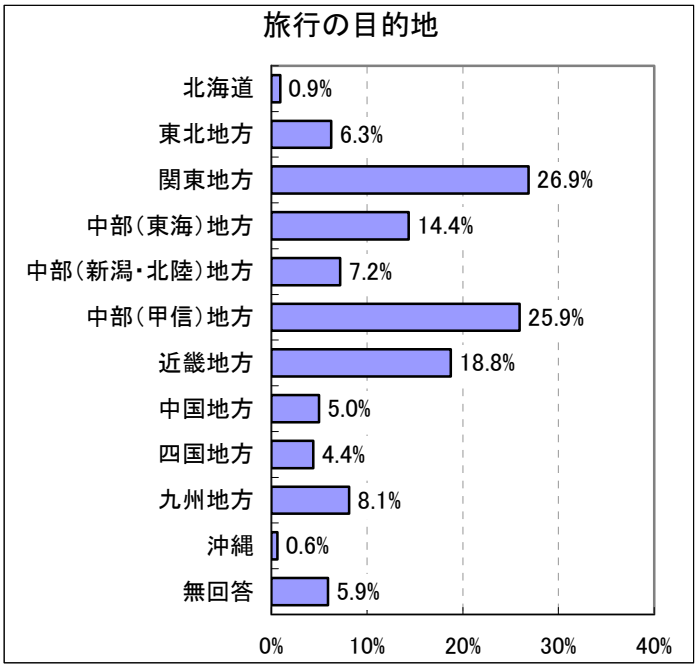
◆年末年始に国内旅行（日帰り旅行・帰省を含む）の予定のある回答者（全体の 49.4%）に、旅行に出かける目的をたずねると、「実家で家族・親戚と過ごすため」が 49.1%でもっとも多く、次いで「温泉」(35.9%)、「旅行先の味覚を楽しむ」(19.7%) が多い。

図表 12.（年末年始の国内旅行の予定のある方に）旅行に出かける目的（複数回答　最高 3 つまで、n=320）



◆年末年始に国内旅行（日帰り旅行・帰省を含む）の予定のある回答者（全体の 49.4%）の旅行の目的地をたずねると、「関東地方」(26.9%)、「中部（甲信）地方」(25.9%) が上位となった。

図表 13.（年末年始の国内旅行の予定のある方に）旅行の目的地（複数回答 3 つまで、n=320）



－以上－